

美浦村の課題、現状

現在、本村の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、ハンドボール部、ソフトテニス部、バレー部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、卓球部、剣道部、柔道部が活動している。

少子化に伴い、団体競技である軟式野球については、近隣市の中学校と合同チームによる活動が行われており、昨今の出生者数を見ると軟式野球部はもとより、団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

これらのことから、令和5年12月に部活動地域移行方針が示され、本村では既存部活動の地域移行を進めるとともに、これまでの部活動にはなかった種目の新たなクラブを発足させ、生徒の選択肢が拡大するような地域移行を進めていく。

中学校の概要

公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	274 人
部活動数	13 部活（文化部含む）
部活動種目 （運動部）	軟式野球部、サッカー部、ハンドボール部、ソフトテニス部、バレー部、男子バスケットボール、女子バスケットボール、卓球部、剣道部、柔道部

地域スポーツクラブ（公認地域クラブ）の概要

発足数	7クラブ
加入生徒数	4 人
種目	乗馬、フィッシング、フリースケート、硬式野球 バレー、総合型（体操等）、ゴルフ

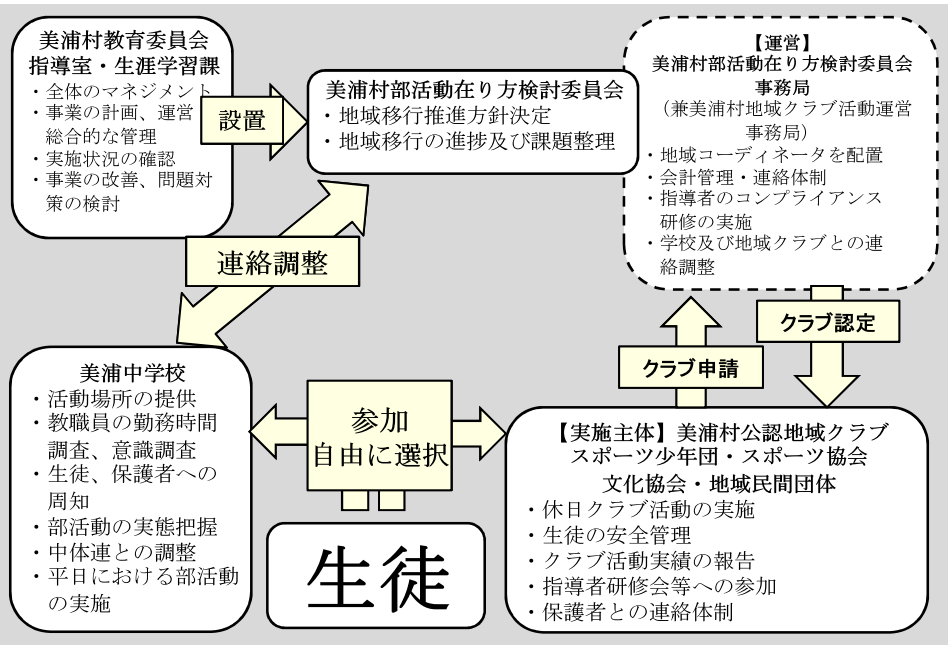
地域移行関連の取組、成果

地域移行を進めるにあたり、固有の地域資源や地域おこし協力隊などの地域人材を活用するなど、美浦村独自で特徴ある地域クラブが発足した。

- ・「競走馬の里」ならではの、馬との共生をテーマとした美浦ホースクラブ
- ・「霞ヶ浦」を活かした美浦フィッシングクラブ

この2クラブは現時点においての加入生徒は4名と少ないが、特徴ある取り組みとして、競走馬及び釣りの業界からも高い評価を受けている。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 美浦村

自治体名： 茨城県美浦村

担当課名： 生涯学習課

電話番号： 029-885-4451

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	66.61 km ²
人口	14,121 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	274 人
部活動数	13 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本村の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、ハンドボール部、ソフトテニス部、バレー部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、卓球部、剣道部、柔道部が活動している。

少子化に伴い、団体競技である軟式野球については、近隣市の中学校と合同チームによる活動が行われており、昨今の出生者数を見ると軟式野球部はもとより、団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

これらのことから、令和5年12月に部活動地域移行方針が示され、本村では既存部活動の地域移行を進めるとともに、これまでの部活動にはなかった種目の新たなクラブを発足させ、生徒の選択肢が拡大するような地域移行を進めていく。

しかしながら、長年にわたり部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いているため、今後、地域移行を進めるにあたっては、部活動が教育課程

以外のものであることを関係者に認識させること、また、本村は小規模自治体であることから、行政、学校、地域を調整するコーディネーターやクラブ指導者の掘り起こしや確保について大きな課題であると考えている。

2.実証内容と成果①

主な取組

美浦村公認地域クラブ

令和6年3月に開催された、第4回部活動在り方検討委員会に於いて、「美浦村公認地域クラブ制度」を推進して、部活動の受け皿となり得る、団体を育成・支援をすることとした。

「美浦村公認地域クラブ認定要綱」に基づき、公認地域クラブの認定を行い、認定を受けた地域クラブが、単位クラブで掲げた活動方針のもと、児童生徒にスポーツや文化活動の新たな機会を提供する。

村としては、この認定した地域クラブが円滑にクラブ運営が図れるよう、社会教育施設や体育施設の使用料を減免するなど、単位クラブの円滑な運営を支援し、持続可能な地域クラブの育成を目指す。

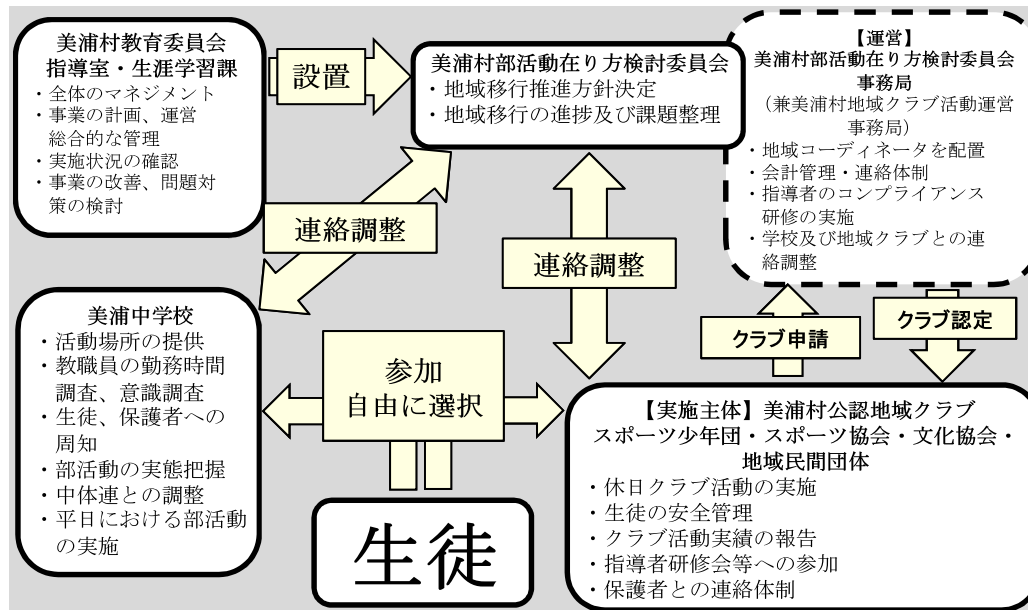
美浦村公認地域クラブ位置付け

	学校部活動	地域クラブ	クラブチーム(民間)
参加形態	学校単位	地域単位	自由選択
目的	・学校教育活動の一環 ・学習意欲の向上、連帯感の涵養等 ・技術向上	・社会教育活動の一環 ・持続可能なスポーツ・文化活動の展開 ・専門性のある指導による技術向上	専門性のある指導による技術向上 ※クラブの方針により多様な目的設定
費用	費用負担:小 公費+保護者会費 ※学校や部の実情により差がある	費用負担:中 受益者負担(R6、7は公費で一部負担) 2,000円～5,000円/月 を想定	費用負担:大 受益者負担 1万円程度/月 が多い
保険	スポーツ振興センター給付金(920円)	スポーツ安全保険(800円)	クラブ指定の保険
指導者	教員が中心 ※競技経験、指導経験の有無に無関係	地域のスポーツ少年団等の地域人材 ※競技経験、指導経験を有する指導者	専門的なスキルを有する指導者
指導資格	教員免許または競技経験者、指導経験者	競技経験者、指導経験者の中で中学生の健全育成に努める者 ※必要な研修を受けた者	各クラブ規定による

2.実証内容と成果②

運営体制・役割

●運営体制図（美浦村における推進体制図）



●組織内での役割分担

◎教育委員会

<生涯学習課>

・全体マネジメント ・事業（公認地域クラブ）の計画、運営及び総合的な管理

<指導室>

・部活動運営方針の改訂支援 ・計画及び運営に対する指導助言

◎首長部局

<総務課>

地域住民への広報

年間の事業スケジュール

令和6年3月	第4回 部活動在り方検討委員会
令和6年4月	スポ少等の地域団体調整
令和6年5月	美浦村公認地域クラブ募集
令和6年6月	美浦村公認地域クラブ募集 美浦村公認地域クラブ申請・認定
令和6年7月	美浦村公認地域クラブ募集 美浦村公認地域クラブ申請・認定
令和6年8月	美浦村公認地域クラブ活動開始 第5回 部活動在り方検討委員会
令和6年11月	指導者安全管理講習会
令和7年3月	第6回 部活動在り方検討委員会

2.実証内容と成果③

美浦村公認地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	7 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		6 クラブ

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
美浦ホースクラブ	公認地域クラブ	乗馬等	毎週土曜日 30回	9時～ 12時	小学生10名 中学生2名	令和6年 8月～	村内乗馬施設	8 人	8 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	クラブ参加
美浦フィッシングクラブ	公認地域クラブ	釣り	隔週土曜日 10回	9時～ 12時	小学生8名 中学生2名	令和6年 8月～	霞ヶ浦湖岸	8 人	8 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	
美浦フリースケートクラブ	公認地域クラブ	フリースケート	毎週土曜日 30回	9時～ 12時	小学生8名 中学生2名	令和6年 8月～	安中多目的施設	8 人	8 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	クラブ参加
美浦バレーボールクラブ	公認地域クラブ	女子バレー	0 回	9時～ 12時	応募者なし	令和6年 8月～	農林漁業者TC	3 人	3 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	部活で中体連
硬式野球クラブ美浦	公認地域クラブ	硬式野球	隔週土曜日 10回	18時～ 21時	小学生5名	令和6年 8月～	晴天スタジアム	7 人	8 人	月会費 2,000円	教室のため不参加
美浦ゴルフクラブ	公認地域クラブ	ゴルフ	0回	18時～ 21時	応募者なし	令和6年 8月～	打ちっぱ	3 人	3人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	
ジョイスぽ	公認地域クラブ	総合スポーツ	0回	9時～ 12時	応募者なし	令和6年 8月～	美浦中学校	5 人	6 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	

2.実証内容と成果④

広報資料

美浦村公認地域クラブ通信 No.1

令和6年7月5日発行
美浦村教育委員会生涯学習課
(美浦村中央公民館)
美浦村大字交番 1460-1
TEL: 029-885-4451
FAX: 029-885-7015

いよいよ美浦村公認地域クラブが始動!

美浦村公認地域クラブは、部活動を学校に任せるだけではなく、地域全体で中学生のスポーツや文化活動を支えていくために発足。美浦村教育委員会から認定を受けた、今までの部活動にはなかった、多種多様なクラブが活動をスタート! 各クラブとも、部活動において制限された土日を中心にした活動で、部活動との両立も可能。また現在、部活動に所属していなくても、興味関心のあるクラブを見つけてこの機会に参加してみよう!

中学生のみならず、小学生が対象となるクラブも多数あるので、小学生も一緒にチャレンジ。中学生も小学生も、まずは体験会へGO!

文化系クラブ

美浦村ボランティアクラブ

<対象者> 中学生以上
<場所・日時> 美浦村内 ◆随時
(各イベント会場・企業ほか)
<会費> 1,000円/年

体験会
7月20日(土) 18時~
美浦村中央公民館企画室

<代表者> 佐藤 十枝
(みほっこり隊)
<活動内容> 村内のイベントや企業でのボランティア活動への参加
<ひとこと> [美浦村もりあげ隊] 大募集!
美浦村で開催される様々なイベントにボランティア活動をしながら参加して、中学生の力で美浦村を盛り上げていきましょう!

県南吹奏楽クラブ

<対象者> 中学生以上
<場所・日時> 美浦村中央公民館 大ホール
◆毎週土曜日午後
<会費> 2,000円/月

体験会
7月13・27日 15時~17時
8月1日随時
美浦村中央公民館 大ホール

<代表者> 佐藤 敬行
(河見吹奏楽団)
<活動内容> 吹奏楽・演奏活動
<ひとこと> 楽器の演奏を通して、仲間と吹奏楽を楽しみましょう。
楽器ごとに専門のトレーナーから直接指導も受けられます。

美浦村本原鹿囃子

<対象者> 小学生以上
<場所・日時> 本原多目的集会施設 ◆毎週土曜日 10時~12時
<会費> 小学生 無料・中学生 1,000円/年
18歳以上 2,000円/年
保険料 800円

体験随時受付

<代表者> 知久 添兵
<活動内容> お囃子の練習
お囃子を通して地域貢献(お祭り等での披露)
<ひとこと> お囃子を楽しみたい方、お囃子を楽しみたい方、大歓迎です! 小太鼓や大太鼓の音色をから聴いてくれる指導員がいますので安心して参加してください!

美浦コーラスクラブ

<対象者> 小学4年生~中学3年生
<場所・日時> 美浦村中央公民館 視聴覚室
◆第2・4日曜日 13時半~15時
<会費> 1,000円/年(会費・1,000円/月会費)
※観音台は各自

体験随時受付

<代表者> 小澤 佑子
<活動内容> 声楽の基礎学習や発声練習から合唱まで
みほ響フェスティバル等の各種発表会に出演
<ひとこと> 初心者大歓迎! 発声の基本を学び、みんなで歌う楽しさを体験してください。一緒に素敵なハーモニーを奏でましょう!

体験会・説明会の申込~正式入会まで

◆下記申込書に必要事項を記入して、美浦村中央公民館に提出◆

◆各クラブより、申込書および日程等の詳細を連絡◆
※公民館に提出された申込書は希望クラブと共有します。

◆体験会等に参加◆

◆入会を希望する場合、クラブ内で手続きをして入会完了!◆

美浦村公認地域クラブ 体験会・説明会申込書

希望クラブ名 (複数可)	
おのりな	
申込者氏名	
学校名・学年	学校 年
保護者氏名 (姓のみ)	()
保護者連絡先	
住所	

スポーツクラブ

美浦フィッシングクラブ

<代表者> 村川 勇介
(美浦村地域こし協力隊)
<対象者> 中学生・小学生(保護者同伴)・高校生
<場所・日時> 座学: 美浦村週末カフェ ほか
フィールドワーク: 大正エリア中心の霞ヶ浦周辺
◆毎月2回(土曜日) 午前中3時間
<会費> 2,000円/月 その他利用費用として1,000円程度(都度)

<活動内容> 霞ヶ浦の魚や自然を教材にし、釣りを通じて青少年の健康な心を育てる。
<ひとこと> 釣りの経験は必要なし! 霞ヶ浦での釣りを楽しみましょう。霞ヶ浦を熟知した釣りのプロが講師として指導するので気軽に参加してください。

美浦ホースクラブ

<代表者> 阿部 彰希
<対象者> 村内在住の中学生・小学生(1~4年生は保護者同伴)~大人
※村外の方は、村内の方の応募状況に応じて募集
<場所・日時> プリコラージュ・村内の馬場施設
◆毎週土曜日 9時~12時※夏季時期あり
<会費> 5,000円/年(会費・3,000円/月会費)

<活動内容> 馬とのふれあいや乗馬作業、馬業界で働く人たちの交流を通じてホースマンシップを学ぶ。
<ひとこと> 馬を知ってもらえるクラブです。馬に関係することなら何でもチャレンジしてみよう! 様々な馬のスペシャリストも参加予定。

美浦 V・C

<代表者> 山西 博
<対象者> 小学生以上
<場所・日時> 美浦村内施設
◆毎週土・日曜日 9時~12時
<会費> 2,000円/月

<活動内容> バレーボール
<ひとこと> 経験者はもちろん、未経験の方でも大歓迎!! バレーを通して体力や技術を身につけよう! 見学・体験いつでもお待ちしております。

美浦村フリースケートクラブ

<代表者> 藤田 巨樹
(JMKRIDE)
<対象者> 小学生以上
<場所・日時> 安中多目的集会施設 多目的ホール
◆第2・4土曜日 9時半~12時半
<会費> 2,000円/月
※フリースケートギアの購入およびリース利用

<活動内容> フリースケートのレッスン
<ひとこと> のびのびもスイスイ進む、新感覚のローラースポーツをすぐ始めよう! 世界大会が毎年開催される国内外で注目度が高まっています。

硬式野球クラブ美浦

<代表者> 石川 大志
<対象者> 小学6年生~中学3年生
※全土の所属チームがある場合は、所属の監督等と事前相談の上で参加ください
<場所・日時> 晴天スタジアム美浦(日光と鳥の丘公園野球場)
◆第2・4土曜日 18時~20時 ※1~2月は活動休止
<会費> 1,000円/年(会費・2,000円/月会費)
※グローブ(軟式用)はご準備ください

<活動内容> 硬式野球での打撃および守備練習のほか、野球全般のルールやスポーツマンシップを学ぶ
<ひとこと> 野球経験は必要なし! 硬式野球のおもしろさや魅力を体験してください。指導者はボーイズリーグ「江戸崎ボーイズ」の指導者とOBの大学生です!

ジョイすぽ

<代表者> 関 文恵
(ジョイナスぽ)
<対象者> 中学生
<場所・日時> 美浦中学校体育館
◆毎月2回(土曜日) 15時~16時半
<会費> 3,000円/年(会費・3,300円/月会費)

<活動内容> トランポリン・縄跳び・スポーツリレーエーション
<ひとこと> トランポリンではふわっとした感覚と様々な技を楽しみ、アクロバット縄跳びでは大縄やダブルダッチでみんなと協力してできる成功体験やマジシャンのようなロープ跳びに挑戦します! 兼任部活大歓迎!

いろいろなことに
チャレンジしてみよう!!

【美浦村公認地域クラブに関するお問い合わせ】
美浦村中央公民館(月曜~祝日休館)
TEL: 029-885-4451

【生徒への参加啓発チラシ】出典: 美浦村教育委員会 生涯学習課

2.実証内容と成果⑤

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦ホースクラブ 1/3

美浦ホースクラブ

本村の地域の特性（競走馬の里）を生かしたクラブとして、乗馬に特化したクラブの立ち上げに取り組んだ。

J R A 美浦トレーニング・センターが運営している乗馬クラブとの連携を模索したが、新たな生徒の受入は困難であるとのことから、村内にある乗馬施設と協議を重ねた結果、乗馬に特化したものではなく、馬との共生をテーマとするクラブを立ち上げることができた。

馬を通した青少年育成を目標としているが、最終的には競走馬産業に従事する人を養成し、競走馬産業の活性化を目指して、活動を開始させた。

現在は小学生から大人まで約20名のクラブ員が毎週土曜日に活動し、J R A の現役ジョッキーや装蹄師、獣医師さんなど馬に関わる、その道のスペシャリストから普通の乗馬クラブでは学ぶことができないことを体験している。

中学生については2名の所属となっているが、問い合わせも多いことから今後は増加することを見込んでいる。



にんじんの収穫体験



にんじん栽培



馬具の学習



馬耕訓練

参加生徒の感想（中学生）

美浦村に住んでいるが、馬に触れ合える場所がなかった。

乗馬クラブだと乗馬がメインになるが、このクラブでは現役の騎手などから学ぶことができるので、入会して良かったです。

高校に入学しても続けていこうと思います。

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦ホースクラブ 2/3

美浦ホースクラブ
Minato Horse Club



阿部彩希（あへ・さき）
1988年1月10日生まれ。千葉県船橋市出身。小学5年生から、北海道旅行中に憧れた大塚ひづる子馬で体験乗馬をしたことがきっかけとなり、馬の魅力に引き込まれる。中学校時代は乗馬少年団に入り、船橋市内の馬場に通い、馬術教室に通い、乗馬は趣味。高校・大学・専門学校で乗馬し、その後、新田馬・小嶋トレーニングセンターで乗馬した。現在はイタノフォックスの調教役を務める。美浦村公認地域クラブの代表として、馬の魅力を伝える活動中。



美浦ホースクラブ代表
阿部彩希さん

「馬の世界に入るための、きっかけの第一歩になれば」

馬の「サマ」さんが体験乗馬など大活躍。現役の騎馬関係者にも協力し、子供たちに馬の魅力を伝える。もとより彩希さんは「引退馬の乗馬」を希望。馬の魅力を伝える活動中。馬の魅力を伝える活動中。馬の魅力を伝える活動中。

◆美浦ホースクラブとは
彩希さんが代表となり、今年春に「もつと馬を身近に感じてみませんか？」を合言葉に立ち上げた。この夏から美浦村の公認地域クラブとして活動を開始。9月からの本格的な活動に向け、現在は正会員（美浦村内在住の小学1年生以上が対象）を募集している。美浦村とも連携し、将来的には「引退馬と乗馬」の普及を目指す。日本の乗馬文化や馬の魅力を伝える活動中。馬の魅力を伝える活動中。馬の魅力を伝える活動中。

人不足が危ぶまれる馬業界の未来を憂い、一人の女性が助けた。美浦トレーニングセンターがある美浦村に在住の阿部彩希さんが立ち上げたのは「美浦ホースクラブ」。子供たちに馬を身近に感じてもらい、その素直な心を育ててもらう。「馬の世界に入るための、きっかけの第一歩になれば」と今年7月に活動を開始した。

「馬業界は全職種が人手不足」
「馬ってどんな生き物なの？」ここで馬の世界を知ってもらう。馬業界への最初の「一歩を踏み出すためのお手伝い」をしたい。馬業界の全職種が人手不足。馬業界以外にも馬と関わる仕事はたくさんある。そこで、きっかけに多くの子供たちが馬の世界に飛び込んでくれたらいい。阿部彩希さんは現在、美浦トレーニングセンターの裏手にある民間施設の協力を得て活動している。まずは馬の世界の最前線で働く人たちが近くにいる環境を生かしたいと考える。「美浦」から「ここ」まで。それが当クラブの魅力。ジョッキー、調教師さん、調教助手さん、厩務員さん、獣医師さん、馬車運転手さん、馬に關わるスペシャリストの方々をお呼びして、普通の乗馬クラブではできないことを体験してもらいたい。もちろん、新聞記者さん、専門家に……。早速、9月からの本格的な活動に向け、8月12日には体験会が開かれた（次項に詳細）。この施設で余生を送っている引退馬達

出典：週刊ギャロップ9月号（2024.8.26発行）

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦ホースクラブ 3/3

美浦ホースクラブ
Mihop Horse Club



北村騎手と馬務員志望の中間貴太郎



カイバ作り体験



美浦ホースクラブ体験会の動画はZBAT!公式YouTubeチャンネル(QRコード)からご覧になれます



(ペン・カメラ) 相田悠太

馬務員志望の高校生
みんなが楽しそうな笑顔にあふれていた。
つば市から参加した中間貴太郎君は高校2年生。将来はJRAの馬務員を志望しているという。体験乗馬の時間中も北村騎手に本馬での実技指導を受け、馬乗りの基礎や体づくりのことを個別に質問していた。

「小さい頃に偶然、キタサンブラックの引退レースを見て、そのスピードと心で感動しました。馬務員の仕事を知り、この字は覚えてもらったら嬉しいなと思っていました。実際に参加してみても、馬に接する機会がなかったし、そんなに苦しく感じる必要はないのかもしれないと思いました。」

現役のジョッキーからアドバイスを受けたのも貴重です。モチベーションが高まりましたね。
「本人の熱量が伝わってくるので、親として、馬を飼育するにあたって、親としての責任をしっかりと果たしていかなければならないですね。馬の健康や安全、馬の扱いの仕方など、馬の専門家から学ぶことは非常に重要です。馬の健康や安全、馬の扱いの仕方など、馬の専門家から学ぶことは非常に重要です。」

◆各イベントにも出店を予定
引退馬支援の一環として、美浦ホースクラブのメンバーが馬具を使ったイベントの制作・販売を予定している。9月23日(日)には、近隣の牧場や馬場で行われる「いなほカースコミュニティマルシェ」に美浦村の地域産品販売所「いなほカース」とともに出店が決定。11月の「いなほカース」でも出店が決定。11月の「いなほカース」でも出店が決定。11月の「いなほカース」でも出店が決定。



ゲストは北村宏司騎手
立ち上げから数ヶ月、8月12日には1回目の体験会が開催された。美浦村をはじめ、茨城県内に在住の子供たちと保護者の十数組が参加。約2時間、体験乗馬やカイバ作りなどの活動が行われた。
「大工の父親が趣味で乗馬をしていたこともあり、僕が幼稚園児の頃に父(長野孝)から馬に乗せてもらった経験があります。馬に乗ることは、子供にとって非常に良い経験だと思います。馬の健康や安全、馬の扱いの仕方など、馬の専門家から学ぶことは非常に重要です。」



美浦ホースクラブで体験会を開催
子供たちが乗馬やカイバ作りなど体験

出典：週刊ギャロップ9月号(2024.8.26発行)

2.実証内容と成果⑧

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦フィッシングクラブ 1/2

美浦フィッシングクラブ

本村の地域の特性（霞ヶ浦）を生かしたクラブとして、霞ヶ浦での釣りに特化したクラブの立ち上げに取り組んだ。

美浦村には滋賀県の琵琶湖に次いで2番目の面積を有する霞ヶ浦に面している。しかしながら霞ヶ浦で釣りをする地元の児童生徒は非常に少なく、霞ヶ浦に行ったこともない児童たちが増加している。

この状況に危機感を感じている村地域おこし協力隊員でブラックバスのフィッシングプロに村川氏が部活動の地域移行の流れの中、これを絶好の機会ととらえ、フィッシングクラブの立ち上げを行政と共に模索した。村川氏を中心とした釣り仲間から共感を得て、安全対策に十分な指導陣を確保できたことから、霞ヶ浦との共生をテーマとする釣りクラブを立ち上げることができた。

釣りを通した青少年育成を目標としているが、霞ヶ浦などの村特有の地域資源を再認識させ、村への愛着や誇りを醸成することを目指して、活動を開始させた。

現在は児童生徒15名のクラブ員が隔週土曜日に活動し、バスフィッシングプロなどから釣り全般にわたり学んでいる。

中学生については2名の所属となっているが、問い合わせも多いことから今後は増加することを見込んでいる。



参加者の感想（中学生）

中学校3年生でサッカー部に所属しています。

平日は部活動、土曜日はフィッシングクラブで活動しています。

釣りが好きなので、とても楽しく活動しています。

活動場所も村内で自転車で移動できるので、参加しやすく、高校に入学しても継続したいです。

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦フィッシングクラブ 2/2



美浦の湖を満ちるボート群。水野町。

り、ナマズの動きは鈍か
つた。その間、加した小
男は時間より早く大
きなナマズを釣り上げ
た。ボートに父親が同乗
し、母親は岸から様子
をうかがった。「ボート
ナと湖畔近くの美浦村
に集った子どもは、体
験を通して、地域の
魅力を感じ、環境の
大切さや、生き物の
大切さも学べると思
う。活動を通じて、こ
どもたちの心を育め
ることを目指す。」と
関係者から話した。

美浦村の湖を満ちるボート群。水野町。

美浦村は、約10月
月から11月、土曜日に
活動しているが、まずは
安全面も含めてメンツ
ーマンに近い形で指導
するため、入会する人
に限定する予定だ。8月
から開催している体験
には10人が参加、既に
小学生4人が入会を希
望している。

本町の活動が中心と
なるので、その地域性も
伝え、一方で非日常性
の楽しさも伝えたいとい
う。開放的な週末カフ
エでの活動は、保護者も
可。村代表は「子ども
も対象に釣りを教える
クラブ活動は例がない
のでマニュアルも力キ
ュムもないが、自分が
学んだことを伝えられ
たらと思う。親子と美
浦村の活動は、20
年度、国の委託事業の
一部を活用した。美浦
25年度以降の休日の活
動は、地域移行に向け、今後
活動が本格化していく。
中学生を対等にクラ
ブもあるが、小学生は
高校生、社会人にも門戸
を開くつもりだ。学
校が担ってきた部活動
が、地域移行に伴い、学校教
育から地域社会の活動
に移行、地域に根ざす
スポーツ振興中心の活動
から、地域社会の活動
中心の活動へと変えて
いく。村代表は、



美浦の湖を満ちるボート群。水野町。

学校の延長でない部活動地域移行

雄大な美浦湖を満ちる美浦村（水野町）は、村は中学校の部活動地域移行に向け、美浦湖で釣り
を満ちる美浦フィッシングクラブが目を惹く。2025年度から休日の部活動を地域に
移行するため、延長させた公認地域クラブのついで、村の環境、地域資源を生かし、学校部活動
の延長ではない部活動を示すとともに、関係者は「子どもたちが地域に誇りを持つことか
けにしたい」という思いもある。

地域に誇りを持つきっかけに
茨城・美浦フィッシングクラブ

美浦湖の釣り 身近に 美浦湖に釣りに来て、日本
釣りに来て、美浦湖に釣りに来て、日本
釣りに来て、美浦湖に釣りに来て、日本

美浦村は、約10月
月から11月、土曜日に
活動しているが、まずは
安全面も含めてメンツ
ーマンに近い形で指導
するため、入会する人
に限定する予定だ。8月
から開催している体験
には10人が参加、既に
小学生4人が入会を希
望している。

本町の活動が中心と
なるので、その地域性も
伝え、一方で非日常性
の楽しさも伝えたいとい
う。開放的な週末カフ
エでの活動は、保護者も
可。村代表は「子ども
も対象に釣りを教える
クラブ活動は例がない
のでマニュアルも力キ
ュムもないが、自分が
学んだことを伝えられ
たらと思う。親子と美
浦村の活動は、20
年度、国の委託事業の
一部を活用した。美浦
25年度以降の休日の活
動は、地域移行に向け、今後
活動が本格化していく。
中学生を対等にクラ
ブもあるが、小学生は
高校生、社会人にも門戸
を開くつもりだ。学
校が担ってきた部活動
が、地域移行に伴い、学校教
育から地域社会の活動
に移行、地域に根ざす
スポーツ振興中心の活動
から、地域社会の活動
中心の活動へと変えて
いく。村代表は、

出典：教育新聞（2024.10.7）

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

学校部活動にない地域クラブについては、6団体発足することができ、当初の目標値を2団体としていたことから、目標値を大きく上回ることができた。

コーディネーターの配置も、現職の社会教育指導員（会計年度任用職員）の勤務日数を増やすなどして、適任者を配置させることができた。

その一方で既存部活動の移行を円滑に進めることができなかった。

既存部活動の受け皿に想定していたスポーツ少年団等が、本村が推進する公認地域クラブにマッチすることができなかったことが、1番の要因としてあげられる。

また、令和7年8月までは既存部活動が土日のどちらかを活動日としていることから、地域クラブの土日の活動日が重複してしまうことや、重複しなくてもオーバーワークになることが懸念されるなど、生徒たちが敬遠するような状態となっている。

●成果の評価

学校部活動にない公認地域クラブについては、目標を大きく上回り、また、地域人材や資源を活用したクラブが発足したことは高く評価できるものとする。

目標を大きく上回った要因としては、コーディネーターとして配置した、現職の社会教育指導員（会計年度任用職員）が中心となり、スポーツ少年団等との団体調整が図れたことが挙げられる。

しかしながら、部活動の地域移行で最も重要視されている、既存部活動の移行がほぼ進捗していない状況については、早期に改善策を検討する必要がある。

●今後に向けて

学校部活動にない公認地域クラブについては、これまで同様に推進して、各種スポーツクラブが立ち上がるよう、団体の育成支援に引き続き取り組んでいく。

既存部活動については、令和7年8月以降にスムーズに土日の活動が移行できるように、学校と連携をこれまで以上に強化していかなければならない。

また、受け皿となり得るスポーツ少年団等ともコーディネーターを中心に対話を重ね、不安要素をひとつひとつ排除するなど、単位少年団に寄り添うとともに、スポーツ少年団本部としても地域移行に取り組む体制の整備を図る。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

<目 標>

- ・令和7年度末までに休日の部活動に関わる「教職員」をゼロにする。
- ・令和7年度末までに令和5年度当初にない部活動種目の地域クラブを二つ以上発足させる。

<ロードマップ>

